

2025 年度第 1 回地域会議 議事概要

2025 年 11 月 17 日（月）、六ヶ所村において地域会議を開催しました。

当会議は、日本原燃(株)が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、弊社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員】

議長	佐藤 敬	様	青森中央学院大学	学長
	芦野 英子	様	エッセイスト	
	上長根 浅吉	様	(株)浅工務店	取締役会長
	菊池 としえ	様	青森県むつ小川原開発審議会	委員
	北村 真夕美	様	(株)青森経営研究所	代表取締役社長
	武輪 俊彦	様	武輪水産(株)	代表取締役会長

【議事次第】

1. 社長挨拶
2. 資料説明
資料「原子燃料サイクル事業の現状について」
3. 意見交換

【議事概要】

◆社長挨拶

本日はご多忙の中、今年度 1 回目の地域会議にご出席いただき、また、日頃から当社事業に対し、ご理解とご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

まず、はじめに 10 月 24 日、再処理工場のウラン・プルトニウム混合脱硝建屋において、協力会社社員 3 名がフィルタの定期的な交換作業中に体内に放射性物質を取り込むおそれのある状況を発生させてしまい、皆さまにご心配をおかけして大変申し訳ない。私どもは、あつてはならないことだと非常に重くとらえている。現在、体内への内部取り込みの有無について、バイオアッセイという検査方法で、当該 3 名の 5 日間の排泄物に含まれる放射性物質を測定し確認している。既に排泄物は採取したが様々な評価過程があり、時間を要することから現在 3 日目までの評価段階である。3 日目までの評価結果では、3 名ともに ICRP（国際放射線防護委員会）が無視される値と定義している 2 ミリシーベルト未満であり、有意な内部被ばくはない見込みである。また、3 名ともに体調変化が見られないことを当社産業医が確認している。何故、放射性物質が外へ出たのか、

防護装備を着用しているにも関わらず、何故今回の事象が起きたのか、作業手順等を徹底的に分析しているところである。今回の原因と再発防止対策がまとめ次第、委員の皆さまにも報告させていただく。

次に11月14日、MOX燃料工場建設エリアの配管工事において、溶接前の配管切断・加工を行っていた協力会社社員1名が、加工機器に右手人差し指と中指を挟んで負傷し、右手中指第一関節切断、右手人差し指骨折と診断された。このような労働災害を発生させてしまい、申し訳ない。現在、原因究明を行っているところである。今後、現場で働く全ての人々が安心して仕事ができるよう、再発防止対策をしっかりと講じていく。

本日の会議では、再処理工場しゅん工の審査への対応状況、MOX燃料工場の建設状況、低レベル放射性廃棄物埋設センター1号埋設施設の覆土の準備状況等に加え、継続的な取り組みとして、災害発生時の対応訓練、運転員の技術力の維持向上等について説明させていただく。

その他、本日は、大規模地震等により、再処理工場の全ての交流電源が喪失した場合に、電源車を準備し、ケーブルを敷設して建屋に電気を送り込む様子と、構内の道路に瓦礫が散乱して通行できなくなった場合に、ホイールローダで瓦礫を撤去する様子をご覧ください。当社ではこうした訓練を日々積み重ねており、訓練のなかの代表例として皆さまに確認いただきたい。

委員の皆さまの忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

◆意見交換会概要

【テーマ】

- ・現場を実際にご覧になった際のご意見
- ・原子燃料サイクル事業の現状についてのご意見



意見交換の様子

【委員】

日本の内閣が変わったが、原子燃料サイクル事業への影響はあるのか。

【当社】

影響はないと思っている。ロシアとウクライナの紛争以降、日本のエネルギーセキュリティ、安全保障を強化することが重要であると考えており、私どもとしては、しっかり事業を進めることが必要だと考えている。

また、歴代の経済産業大臣には原子燃料サイクル施設をご視察していただき、事業の進捗を説明しているのです、これを継続していきたい。

【委員】

本日視察した安全対策の一つであるホイールローダを使用した瓦礫撤去訓練だが、災害で木が倒れた場合、ホイールローダだけでは対応が難しいと思っている。何か対策は考えているのか。

【当 社】

施設内にはホイールローダだけでなく、鉄骨も切断できるブレーカーはさみ等、様々な重機を備えている。

また、災害時に尾駸沼から水を確保するための専用道路の両側は、コンクリートで固め斜面が崩れないように整備している。

【委 員】

施設の入域管理については徹底していると感じたが、ドローン対策は行っているのか。

【当 社】

ドローン対策については、機微情報にあたるため、具体的には申し上げることはできないが、サイクル施設は24時間適切に監視を行っている。関係機関と連携しながら、レベルの高い監視を行っており、今後も国内の動向を注視しながら更なる対策の強化も取り入れていく。

【委 員】

六ヶ所村全戸訪問は、寒い時期に村内すべての家を訪問しているので、対応する社員の皆さんは大変だと感じている。私が住んでいる泊地区は、山側にも民家があり、今年は熊の出没も確認されているので、十分気をつけてほしい。

私は、次世代層を対象に、原子燃料サイクル事業が六ヶ所村に誘致された成り立ちや、世界に誇れる会社がある六ヶ所村の素晴らしさについて、語り継ぐ活動を行っている。この活動を通して、多くの子供たちが六ヶ所村に根付いてくれることを願っている。

【当 社】

素晴らしい活動だ。私どもは、採用活動の一環として奨学金の一部を当社が負担する制度を構築した。会社としてPRしていきたいと思っているので、委員の皆さまも是非お力添えいただきたい。

【委 員】

それはとてもいい制度だと思う。

【当 社】

全戸訪問について、評価いただきありがたい。今年は11月12日から行っており、訪問時は社員2名以上で、必ず管理職が同行することとしている。また、

六ヶ所村内に熊が出没している状況を踏まえ、訪問時間を15時までとし、また、できるだけ訪問先住宅近くまで業務車両で移動し、極力歩くことのないようにする等、安全対策を講じている。

【委員】

承知した。私も危険だと思っていただけ安心した。

【委員】

私の身近に教職員がおり、原子燃料サイクルについて話すきっかけがあればと思い、この会議の内容等を伝えている。エネルギー関係や原子力については正確に話を伝えていかないといけないと思っている。

【当社】

当社の採用について、高校卒の学生にも多く入社していただきたい。六ヶ所村のレイクタウン地区に社員寮がある。近くにはスーパーやコンビニもあり生活面で不便はしないと思う。近年の高校生にどのようにアプローチすればよいのかご教示いただきたい。

【委員】

学生だけではなく教職員への理解活動が必要だと思う。

【委員】

これまで何度も視察させていただいたが、しゅん工が間近だと実感した。しゅん工に向けて必要な設備などは今のうちに備えていただきたい。フランスに運転員を派遣しているとのことだが、しゅん工後も円滑に維持管理していけるように、計画を組んでいただきたい。

津軽地域では、日本原燃の認知度が低いというお話しだが、社会の中での広報等はさらに必要と感じている。県内企業との接点は大切である。

【当社】

当社の津軽地域での理解、認知度がまだ足りないという点について、青森地域共生本社では津軽地域を中心に理解活動を行っている。ステークホルダーを中心にご視察いただくほか、定例訪問や勉強会なども実施している。今後はより幅広く理解活動を実施できるよう検討を重ねてまいりたい。

【委員】

放射性物質の内部取り込みのおそれについては、フィルタ交換の際に発生したと新聞やテレビで拝見した。これは部屋の中に設置されたフィルタを交換する作業でとても大きいものなのか。

【当社】

その通り。

【委員】

フィルタ交換の際に問題が発生し、半面マスクを交換したのか。半面マスクは、中のフィルタではなく、マスクそのものを取り換えるということなのか。

【当社】

半面マスクについては、内部のフィルタを交換する必要があるが、半面マスクそのものを交換しても問題ない。半面マスクの交換は汚染のないエリアでも対応できた可能性があり、本事象はこのような手続きに原因があると考えている。

【委員】

2006年にも同様の事象があった。今後も作業は継続すると思うが、しゅん工後、特定の企業だけで対応していかなければならない時代が来た時に、今の高水準の管理ではなく、劣化していくのではないかと危惧している。過去に発生したトラブルの原因と対策は今後に活かしていただきたい。

【当社】

半面マスクの取り扱いや汚染時の対応などはモックアップで訓練し、作業員の熟練度を向上させることが必要だと考えている。管理が劣化しないよう対策してまいりたい。

【委員】

私も所属する読書愛好会という団体があり、その活動の中で、県外から来た団体から低レベル放射性廃棄物が六ヶ所村に埋設されていることについて影響を聞かれることがある。環境などに影響はないのか。

【当社】

環境に影響がでないよう300年間管理していく。

【委員】

現在は3号埋設地まで完成し、廃棄物を受け入れているとのことだがトラブルなどはないのか。

【当社】

環境への影響は確認されていない。廃棄物を詰めているドラム缶は、内側に傷が入るとそこから腐食して、穴が開くケースもありうるが、そういったドラム缶を発見した場合は、そのまま埋めるのではなく原子力発電所に返送している。覆土後はモルタルで覆ってしまうので、内容物が漏れることはないが、周囲で雨が降った際などには影響がないか調査して、しっかり管理することを300年間続けていく。

【委員】

覆土後にドラム缶が腐ることはあるのか。

【当社】

ドラム缶が腐らないように、ベントナイトを混合した土で覆うことで水の侵入を抑える仕組みになっているので問題ない。万が一、ドラム缶が腐って廃棄物が漏れても問題ないように様々な対策を講じている。

【委員】

日本原燃の2026年のカレンダーを見せてもらったが、とても素晴らしい。早速部屋に飾っている。これからも楽しみにしている。

地域との信頼関係はとても大切である。事業者として信用しているが不正があれば信頼は失われる。今後ともよろしくお願いしたい。

【委員】

採用について、毎年多くの学生を採用している企業は青森県にはなかなかない。若年層の県外流出が全国の中でも多い青森県にとって、非常に重要である。

放射性物質の内部取り込みのおそれについて、今回のケースを一つの教訓としてしっかり残して今後活かしていただきたい。

日本原燃の施設を視察して、世界の再処理工場でもこれほど安全対策などを行っているところはないのではと思う。例えば竜巻対策については、どのような規模を想定しているのか。

【当 社】

1 秒間に最大風速 100m 規模の竜巻を想定している。

【委 員】

できるだけ早く事業を進めていただきたい。引き続き、よろしく願います。

【当 社】

委員の皆さまには、ご経験に基づく貴重なご意見、あるいは、我々も気づかない新たな視点に基づくご助言をいただき感謝申し上げます。

1985 年に、青森県ならびに六ヶ所村と立地基本協定を締結させていただいてから 40 年が経った。この間、中核となる再処理工場をしゅん工させられず申し訳ない。今年度はしゅん工が目に見える状況まで来ている。2026 年度中に再処理工場、2027 年度中に MOX 燃料工場をしゅん工させて、1 日でも早く地域の皆さまに恩返しをしたい。本会議では、当社のことを信頼しているというありがたいお言葉をいただいたが、信頼を失うのは一瞬だと思っている。地域の皆さまからの信頼を失わないよう、これからも透明性を確保しながら、安全最優先で事業を進めてまいる。

本日ご説明した「放射性物質の内部取り込みのおそれ」と「労働災害」について、内部取り込みのおそれは、しゅん工後、同様の作業が非常に増えるので、二度と起こさないという覚悟をもって、原因を明らかにして対策する。労働災害も同様に発生させないよう対策する。

今後、しゅん工にあたって、県内全域、さらには日本全体に対して事業の説明をしていかないといけない。本日いただいたご意見を参考にしながら、今後の広報活動に活かしてまいる。採用活動については、今後入社していただく方が、これからの工場を 40 年、50 年と運転していくので、希望をもって入社していただけるように、PR 活動をしていく。

引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以 上